

第6回 部会検討結果報告書（都市基盤・産業部会）

記録者	山田 あずさ	場所	市役所北庁舎第1・2・3会議室		
開催日時・場所	平成28年10月8日（土） 午前10時00分 ~ 10時50分				
出席者 (9名)	川口 克巳(発表)	草郷 亜実	藤井 麻由美	向井 佐知子	
	山田 和夫	浅井 琢也	神戸 悟	斉藤 寛人	
	山田あずさ				
傍聴者	0名				

基本施策名	報告会準備
-------	-------

前回（第5回会議）の振り返りについて

社会基盤の保全・整備

「前回の追加報告。府中まちなかきららの道路の、重複している団体も含めた申請件数は、短期と長期の合計で、平成26年度15件、平成27年度41件だった。

近隣市にも、ボランティア清掃の制度を導入している市がある。一つの市は、道路のみの制度がある。他の一つの市は、道路と公園の制度を分けなくて活動を受け付けている。」

全体の振り返りについて

今回（第6回）の報告会準備

「発表時間の関係で発表の原稿を削った結果、前回までの部会で委員から出た、他では思いつかないような意見をカットし、主要な項目だけを提案するものとなったが、どうか。」

「後は、表現について話し合しましょう。」

「発表の原稿は全体的に素晴らしい。しかし、具体例をもう少し加えた方がいい。前回の『府中まちなかきらら』は、印象に残っている。」

「他にないものは、第4回に聞いた『府中市だけの中小企業の支援』があるが、説明が長くなりそうなので、原稿から抜いた。発表の中で時間を見ながら、具体例も説明します。」

「『受益者負担』とは、具体的に何か。」

「意見がたくさんあった中の、『受益者負担』という意見を発表原稿に載せた。」

「『少子・高齢化の一方で、産業振興やまちの拠点整備には、府中市内の大学・高校の青少年の協力が大いに期待できます』とは具体的に何か。」

「具体的なことについては、部会でもこれから検討しましょうという部分で話がおわってしまっていた。」

「では、発表の際に時間を見ながら余裕があれば入れましょう。」

「既に東京農工大学と東京外国語大学の学生との連携については、話し合いが始まっている。」

「そういうことを伝えられれば、面白いのではないか。」

「しかし、発表には時間の都合上入れられないのではないか。」

「東京外国語大学は、ブラジル研究会。東京農工大学は晴見町の活動があると聞いている。」

「部会での意見も、その後よく注意してみれば始まっていたことがあった。国分寺市と連携した観光コースについては、マップがあった。」

「回遊バスがないだけだった。」

「やはり市からのPRが、足りないのではないか。」

「市民もアンテナを立てている方がよい。」

意見を言うつもりが、教えられて、委員の皆さんから貴重な意見を聞いた。」

「『減災』について、我々は都市基盤・産業部会なので、『耐震化』の対象に市の都市基盤整備の要素も入れてはどうか。」

「インフラという言葉に、都市基盤の道路、橋梁、下水道などが含まれる。『木造家屋密集地域や道路の狭い地区の家屋とインフラの耐震化』としましょう。」

「原稿では『シェアオフィスやイノベーション企業』となっているが、シェアオフィスは、誘致する必要があると考えて意見を出した。」

「では、『シェアオフィスの誘致やイノベーション企業の支援』としましょう。」

「新規農業者の支援以外にも、既存農業者への支援も行っていることから、表現を『農業の担い手への支援』としましょう。」

「今日までに、原稿をメールで送り、すぐに委員から意見が返信のメールで来たことも良かったが、やはり発表前に直接、部会の委員と原稿の話ができて良かった。」